

次世代郊外まちづくり リーディング・プロジェクト(2015)を策定

～モデル地区の企業社宅跡地を活用した「コミュニティ・リビング」の取り組みが始まります！～

横浜市と東京急行電鉄株式会社（以下「東急電鉄」という。）は、平成24年4月に締結した「次世代郊外まちづくり」の推進に関する協定に基づき、産・学・官・民が連携してまちづくりに取り組んでいくためのビジョン「次世代郊外まちづくり基本構想2013」を平成25年6月に発表しました。また、この実行計画である「リーディング・プロジェクト（2013・2014）」を策定し、これまでモデル地区（東急田園都市線たまプラーザ駅北側地区）を中心に様々な取り組みを進めてきました。

今般、リーディング・プロジェクト（2014）を継続・拡充した『リーディング・プロジェクト（2015）』を策定し、モデル地区内の青葉区美しが丘1丁目において、「コミュニティ・リビング（※別紙2参照）」の実現に向けたモデルプロジェクト第1号案件に着手します。

横浜市と東急電鉄の協定締結から本年4月で4年目を迎え、さらなる具体的な取り組みを推進していきます。

『リーディング・プロジェクト（2015）』

基本構想に基づく6つの実行計画

1. 地域のエリアマネジメントに向けた仕組みづくり

地域に関わる様々な組織・グループがともにまちづくりに取り組めるよう、様々な主体による活動のネットワーク化を進めます。

2. 地域のエネルギーマネジメントに向けた仕組みづくり

新エネルギーや水素などを活用した自立分散型エネルギー拠点の検討などを通じて、既成市街地でのスマートコミュニティづくりを推進します。

3. まちぐるみの保育・子育てネットワークづくり

子育てしやすいまちを目指し、保育・子育てに関わる様々な主体が連携・協働していくためのネットワーク構築を進めます。

4. 地域包括ケアシステム「あおばモデル」パイロット・プロジェクト

安心して住み続けられるまちを支える医療・介護の連携促進と情報インフラのパイロットモデル構築を進めます。

5. 住宅団地・社宅等の再生と商店街と連携したまちの賑わいづくり

ー「コミュニティ・リビング」モデル・プロジェクトの実現ー

コミュニティ・リビングの実現を目指し、モデル地区内を中心に、企業社宅の再開発について民間事業者との連携・協働による取り組みを進めるとともに、田園都市線沿線の住宅団地・社宅などの再生の仕組みや、空き家の流通促進や活用、商店街と連携したまちの賑わいづくりについても検討を進めます。

6. 公的資源の新たな活用の仕組みづくり ー健康・移動・教育・防災等の推進ー

公園・遊歩道を活用した「健康づくり歩行者ネットワーク」の検討や、学校との連携など、公的資源をこれまで以上に有効に活用するための新たな仕組みづくりを進めます。

モデル地区内における企業社宅跡地を活用した「コミュニティ・リビング」の取組み

1. 地区の概要

計画地は、たまプラーザ駅から至近の距離にあり、駅からたまプラーザ団地に抜ける歩行者専用道に接しています。歩いて暮らせる範囲に必要な機能がコンパクトに集積しているまちを目標とする「コミュニティ・リビング」(※別紙2を参照)を実現する上で、地域の核となる機能を担います。



2. 「暮らしと住まいのランドデザイン」

平成25年に、有識者と横浜市、東急電鉄で立ち上げた「暮らしと住まい再生部会」において、モデル地区内で取組みを進めるための指針として、「暮らしと住まいのランドデザイン」を取りまとめました。

3. 今回計画の位置付け

今回の計画は、モデル地区内の土地利用転換に伴う再開発を、東急電鉄をはじめとする民間事業者と横浜市との連携・協働によるモデル事業に位置付け、「暮らしと住まいのランドデザイン」で策定された「コミュニティ・リビング」の実現を目指すものです。計画を進めるにあたり、横浜市と民間事業者とが協議を行い、地域に必要とされる機能を民間事業者が主体となって整備していきます。

4. 今回計画のコンセプト

- ・老朽化した住宅地の更新と再生
- ・次世代郊外まちづくりの先導的役割を果たす地域利便施設の誘致
- ・安全で快適な歩行者ネットワークの形成
- ・みどり豊かな居住環境の維持・再生
- ・質の高い「都市型次世代郊外住宅」の整備

『リーディング・プロジェクト(2014)』の取組成果、ならびに『コミュニティ・リビング』については、別紙のとおりです。

*「次世代郊外まちづくり」は「既存のまちの持続、再生」を目的に、地域住民、行政、大学、民間事業者の連携、協働によって「暮らしのインフラ」と「住まい」を再構築し、少子社会、高齢社会の様々な課題を一体的に解決していくことを目指していく、参加型、課題解決型のまちづくり手法で進めるプロジェクトです。

この取組は、横浜市が推進している「環境未来都市計画」の主要な取組である「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」に位置づけられています。



お問合せ先

横浜市 建築局住宅再生課長	大友 直樹	Tel 045-671-4543
温暖化対策統括本部環境未来都市推進課担当課長	甲斐 泰夫	Tel 045-671-2336
東京急行電鉄株式会社 社長室広報部 森田・柳澤・山本・長谷		Tel 03-3477-6086



報道関係者 各位

平成 27 年 3 月 26 日
横 浜 市
東京急行電鉄株式会社

次世代郊外まちづくり リーディング・プロジェクト(2015)を策定

～モデル地区の企業社宅跡地を活用した「コミュニティ・リビング」の取組みが始まります！～

横浜市と東京急行電鉄株式会社（以下「東急電鉄」という。）は、平成 24 年 4 月に締結した「次世代郊外まちづくり」の推進に関する協定に基づき、産・学・官・民が連携してまちづくりに取り組んでいくためのビジョン「次世代郊外まちづくり基本構想 2013」を平成 25 年 6 月に発表しました。また、この実行計画である「リーディング・プロジェクト（2013・2014）」を策定し、これまでモデル地区（東急田園都市線たまプラーザ駅北側地区）を中心に様々な取組みを進めてきました。

今般、リーディング・プロジェクト（2014）を継続・拡充した『リーディング・プロジェクト（2015）』を策定し、モデル地区内の青葉区美しが丘 1 丁目において、「コミュニティ・リビング（※別紙 2 参照）」の実現に向けたモデルプロジェクト第 1 号案件に着手します。

横浜市と東急電鉄の協定締結から本年 4 月で 4 年目を迎え、さらなる具体的な取組みを推進していきます。

『リーディング・プロジェクト（2015）』

基本構想に基づく 6 つの実行計画

1. 地域のエリアマネジメントに向けた仕組みづくり

地域に関わる様々な組織・グループがともにまちづくりに取り組めるよう、様々な主体による活動のネットワーク化を進めます。

2. 地域のエネルギーマネジメントに向けた仕組みづくり

新エネルギーや水素などを活用した自立分散型エネルギー拠点の検討などを通じて、既成市街地でのスマートコミュニティづくりを推進します。

3. まちぐるみの保育・子育てネットワークづくり

子育てしやすいまちを目指し、保育・子育てに関わる様々な主体が連携・協働していくためのネットワーク構築を進めます。

4. 地域包括ケアシステム「あおばモデル」パイロット・プロジェクト

安心して住み続けられるまちを支える医療・介護の連携促進と情報インフラのパイロットモデル構築を進めます。

5. 住宅団地・社宅等の再生と商店街と連携したまちの賑わいづくり

ー「コミュニティ・リビング」モデル・プロジェクトの実現ー

コミュニティ・リビングの実現を目指し、モデル地区内を中心に、企業社宅の再開発について民間事業者との連携・協働による取組みを進めるとともに、田園都市線沿線の住宅団地・社宅などの再生の仕組みや、空き家の流通促進や活用、商店街と連携したまちの賑わいづくりについても検討を進めます。

6. 公的資源の新たな活用の仕組みづくり ー健康・移動・教育・防災等の推進ー

公園・遊歩道を活用した「健康づくり歩行者ネットワーク」の検討や、学校との連携など、公的資源をこれまで以上に有効に活用するための新たな仕組みづくりを進めます。

モデル地区内における企業社宅跡地を活用した「コミュニティ・リビング」の取組み

1. 地区の概要

計画地は、たまプラーザ駅から至近の距離にあり、駅からたまプラーザ団地に抜ける歩行者専用道に接しています。歩いて暮らせる範囲に必要な機能がコンパクトに集積しているまちを目標とする「コミュニティ・リビング」(※別紙2を参照)を実現する上で、地域の核となる機能を担います。



2. 「暮らしと住まいのランドデザイン」

平成25年に、有識者と横浜市、東急電鉄で立ち上げた「暮らしと住まい再生部会」において、モデル地区内で取組みを進めるための指針として、「暮らしと住まいのランドデザイン」を取りまとめました。

3. 今回計画の位置付け

今回の計画は、モデル地区内の土地利用転換に伴う再開発を、東急電鉄をはじめとする民間事業者と横浜市との連携・協働によるモデル事業に位置付け、「暮らしと住まいのランドデザイン」で策定された「コミュニティ・リビング」の実現を目指すものです。

計画を進めるにあたり、横浜市と民間事業者とが協議を行い、地域に必要とされる機能を民間事業者が主体となって整備していきます。

4. 今回計画のコンセプト

- ・老朽化した住宅地の更新と再生
- ・次世代郊外まちづくりの先導的役割を果たす地域利便施設の誘致
- ・安全で快適な歩行者ネットワークの形成
- ・みどり豊かな居住環境の維持・再生
- ・質の高い「都市型次世代郊外住宅」の整備

『リーディング・プロジェクト(2014)』の取組成果、ならびに『コミュニティ・リビング』については、別紙のとおりです。

以 上

詳細は、「次世代郊外まちづくり」のホームページ (<http://jisedaikogai.jp>) でもご覧いただけます。

お問い合わせ先

横浜市 建築局住宅部住宅再生課長	大友 直樹	Tel 045-671-4543
温暖化対策統括本部環境未来都市推進課担当課長	甲斐 泰夫	Tel 045-671-2336
東京急行電鉄株式会社 社長室広報部	森田・柳澤・山本・長谷	Tel 03-3477-6086

【別紙1】 リーディング・プロジェクト（2014）の取組成果

『リーディング・プロジェクト（2014）』の一つ「住民創発プロジェクト－シビックプライド・プロジェクト－」では、次世代郊外まちづくりの活動支援を受け、地域の方々のアイデアから誕生した15の企画が自立・継続的な活動を展開したほか、地域課題を解決するコミュニティ・ビジネスも立ち上がりました。

また、「地域のエネルギーマネジメントに向けた仕組みづくり」では、既成市街地における「生活者中心のスマートコミュニティ」の実現に向けて様々な取組みを実施しました。平成25年度から継続実施している「家庭の省エネプロジェクト」では、3回のプロジェクト合計で約122t（杉の木換算8,700本分）ものCO2を削減し、大きな効果を上げました。

1. 住民創発プロジェクト－シビックプライド・プロジェクト－

平成25年度にスタートした住民創発プロジェクトでは、自分のまちに愛着と誇りを持って行動する企画を、地域にお住まいの方々やNPOなどの活動団体から広く募集しました。講評会を経て認定された15企画の「住民創発プロジェクト」に対し、支援金の交付や専門家によるアドバイス、住民と民間事業者とのマッチングなど様々な方法で、活動を支援してきました。

1年の支援期間の中で、「環境・エネルギー」や「場づくり・コミュニティ」など、様々なテーマの活動が行われ、地域課題を解決するコミュニティ・ビジネスも立ち上がりました。15の企画は現在も活動・事業を継続しています。



約1年間の取組成果を各企画が報告会で発表

2. 地域のエネルギーマネジメントに向けた仕組みづくり

既成市街地における生活者中心のスマートコミュニティの実現に向けて、モデル地区での省エネ推進や創エネルギー設備の導入検討、住民創発プロジェクトとの連携など、様々な取組みを行いました。

平成25年度から実施している「家庭の省エネプロジェクト」では、地域にお住まいの多くの方々にご参加いただき、これまで累計約122t（杉の木換算8,700本分）ものCO2を削減し、大きな効果を上げました。また、家庭のエコ診断では、40回の診断会を実施し、累計440世帯のご家族のエネルギー使用状況を診断しました。



延べ2,725世帯にご参加いただいた
「家庭の省エネプロジェクト」



「家庭のエコ診断」の様子

3. まちぐるみの保育・子育てネットワークづくり

モデル地区において、保育・教育・子育て支援などに携わる多様な主体が参画した「子ども・子育てタウンミーティング」を3回開催しました。より子育てしやすいまちづくりの実現を目指し、保育・子育てに関わる様々な主体が連携・協働していくための仕組みづくりを検討しました。



子ども・子育てタウンミーティングの様子

4. 地域包括ケアシステム「あおばモデル」パイロット・プロジェクト

青葉区の医療・介護関係者と共同で設置した「医療・介護連携の地域包括ケアシステム推進部会」を中心に、地域の医療・介護関係者が連携して高齢者を支えていく地域包括ケアシステム「あおばモデル」の実現に向けた取組みを行っています。

今年度は、「地域の医療・介護関係者の連携と参画」「在宅医療の仕組みづくり」など、重要課題に取り組むパイロット・プロジェクトに着手しました。

医療・介護の専門職が一堂に会した「連携強化セミナー」や「多職種連携ワークショップ」を開催し、また、「あおばモデル」を地域の皆さまに広く知っていただくための講演会も開催しました。



連携強化セミナーの様子

同時に、関係する職種が情報端末を使って患者情報を一元管理（患者情報の書き込みや閲覧を可能とする）する「多職種連携システム」の試行運用を4月から行っています。

5. 「コミュニティ・リビング」モデル・プロジェクト

ー 企業社宅などの土地利用転換時における土地利用誘導 ー

青葉区美しが丘1丁目の企業社宅跡地において、リーディング・プロジェクト（2013）で策定した「暮らしと住まいのグランドデザイン」及び「建築性能推奨指針<案>」の内容を踏まえながら、土地利用転換に際して、地域に必要とされる機能の誘導手法を検討し、地区計画の策定準備を行いました。

6. 新たな地域移動モデルパイロット・プロジェクト

地域の方々の身近な移動手段である「徒歩」に着目し、「公園」や「歩行者専用道」を活用したウォーキングなど、健康づくりの習慣化に向け、公園や歩行者専用道を活用する上での課題の整理などを行いました。

7. 公的資源の新たな活用の仕組みづくり

モデル地区内の公的資源である「公園」「歩行者専用道」を活用した「健康づくり歩行者ネットワーク」の構築検討の他、地域コミュニティ・地域防災の中心的存在・役割を担う「学校」との連携に向けて、学校関係者との意見交換などを行いました。

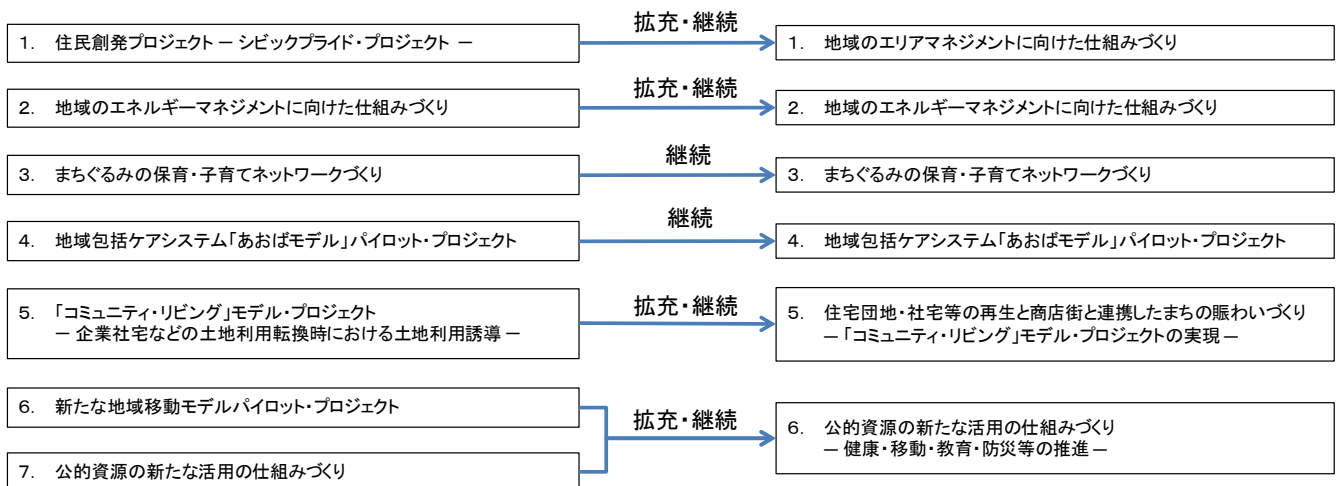
また、モデル地区内の中学校においては、まちの未来の担い手づくりを目指し、学校と連携した学習プ

ログラムにも取り組みました。タブレットを活用したモデル授業や、時代と子どもの発達段階に見合った職業観を育むことを目的とした「職業インタビュー」での講師派遣など、さらなる教育の質の向上に向けてさまざまな活動を行いました。

<参考> リーディング・プロジェクト（2014）と（2015）の関係

リーディング・プロジェクト（2014）

リーディング・プロジェクト（2015）



【別紙2】 コミュニティ・リビングの概要

コミュニティ・リビングとは、郊外住宅地の歩いて暮らせる生活圏の中で、暮らしの基盤となる住まいや住民の交流、医療、介護、保育や子育て支援、教育、環境、エネルギー、交通・移動、防災さらには就労といった様々なまちの機能を、密接に結合させていく考え方です。大規模なコミュニティ・リビングは、多世代かつ多様な住民が交流し、活動する地域のリビングルームであり、郊外住宅地の中の暮らしと住まいの拠点となります。

コミュニティ・リビングを実現していくことによって、自分の住まいから歩いていける距離に必要な暮らしの機能が揃うことになり、多世代の住民の暮らしや交流・活動を支えることができるようになります。また、地域住民が気軽に集まる場ができ、住民の交流や活動も活発になることが期待できます。

